

第4回 CiNii Research に関する検討会議事要旨

日 時：2021年6月21日（月）13：00 ～ 15：00

場 所：オンライン会議

出席者：大向（東京）、嶋田（放送）、田口（東京）、菅原（一橋）、田邊（物質・材料研究機構）、大波、吉田、片岡（以上、NII）、阪口、瀬尾（以上、NII・事務局）

議事

- 1 CiNii Research の本公開について（報告）（資料1）
- 2 CiNii Research の今年度の開発計画について（報告）（資料2）
- 3 CiNii Articles の今後について（審議）（資料3）
- 4 オープンフォーラムについて（報告）（資料4）
- 5 CiNii Research プレ版の利用統計について（報告）（資料5）
- 6 その他

配布資料

委員名簿

- | | |
|------|------------------------------|
| 資料 1 | CiNii Research の本公開について |
| 資料 2 | CiNii Research の今年度の開発計画について |
| 資料 3 | CiNii Articles の今後について |
| 資料 4 | オープンフォーラムについて |
| 資料 5 | CiNii Research プレ版の利用統計について |

議事要旨

- 1 CiNii Research の本公開について（報告）
事務局より、資料1、及び、参考資料に基づき、報告があった。
- 2 CiNii Research の今年度の開発計画について（報告）
大波委員より、資料2に基づき、報告があった。
[主な論点]
 - 色々な機能が今年度中に開発することのだが、スケジュールとしては、全て年度末にオープンするのか。それとも実装が終わったものから逐次的にオープンするのか。
 - 現状では大まかに年度前半か後半か程度のスケジュール感だが、少なくともCiNii Articles の機能移植は最優先で、実装でき次第に公開する必要がある。それ以外の新機能について、タイミングを見計らいつつ公開したいと考えている。(NII)
 - 7月にオープンフォーラムがあるが、そこで披露する新機能はないというこ

とか。

- 今のタイミングでは厳しいと思っている。(NII)
- 認証機能については学認のテストフェデレーションで参加しているのでデモならできるが、CiNii Articles と CiNii Research の認証機能は同時並行に懸念があるため、認証機能は CiNii Articles を終えてからのリリースと考えている。(NII)
- CiNii Articles の機能移植について。一般ユーザから「問題の指摘（＝論文情報の修正依頼）」や「同一人物の報告」を行う機能は、CiNii Research では論文部分だけ報告できるようになるのか。CiNii Books や CiNii Dissertations では報告対応の機能は無かったと思うが。
 - 問題報告については、現状で CiNii Articles にしかないので、CiNii Research でも論文のみに実装するつもりでいる。CiNii Articles の代替としての機能であり、また論文以外の種別について対応フローが整備されていない。論文検索結果のみで出す機能と考えている。(NII)

3 CiNii Articles の今後について（審議）

事務局より、資料 3 に基づき、説明があった。以下の意見交換があり、承認された。

[意見交換]

- 非常にインパクトの大きい話である。ユーザ側として何が変わるのかという点は今後色々なコミュニケーションが発生すると思う。
- 結構早急に統合するという印象である。もうユーザに周知や広報をしていないタイミングと思われる。
 - 7月6日のオープンフォーラムで、CiNii Research のセッションがある。そこで公表して周知を進めたいと思っている。(NII)
 - 統合自体は決定しているということか。
 - 審議事項なので、不可と言うことであれば延長を検討する。ただし予算面の問題があるので、実際に延長可能かは断言できない。(NII)
 - 統合自体は合理的な判断だとは思う。
- CiNii Articles で収録されているが CiNii Research には未収録のソースとして NDL 雑誌記事索引があったが、そういった CiNii Research 未収録のデータは全て今後収録対象になるという理解で良いか。
 - 今のところ全て CiNii Research に収録する予定でいる。(NII)
 - 大学図書館でユーザに説明するにあたり、以前は CiNii Articles でできていたが CiNii Research でできなくなった、といったことは言いつらいと思った。今年度できるのであれば良いと思う。
- 色々な図書館システムが内部的に CiNii Articles の API を使っているように思うが、これについてベンダーとの話などはしているのか。
 - 現状ではしていない。オープンフォーラムで公表する予定だが、一般ユーザとは異なるユーザについては別途連絡を取らないといけないとは思っている。

- る。(NII)
- ベンダー改修のスケジュールから考えると、ギリギリか間に合わない状況という印象はある。
 - 近いうちにベンダーとやり取りした上で、どこの API をどこまで互換性を持たせられるかという点について、コスト等との兼ね合いもあるが、要望を聞きながら進めたいと考えている。(NII)
 - ベンダー改修が間に合わないと、ひいてはエンドユーザに影響が出る。
 - NII にとっても望ましい状況ではないので、なるべく開発者側にも情報共有をしながら進めていきたい。特にベンダー側がどういった使い方をしているか把握をしながら、スケジュールについて考えたい。(NII)
 - 全体的な話になるが、いつまでに何ができているのか、というスケジュール感が見えてくると、意見の出し方も変わってくると思う。
 - スケジュールはシステム開発の状況と関わってくるところがあり、記載しなかった。もう少しシステム開発が進捗すれば、詳しいスケジュールを提示できると思う。(NII)
 - 統計について。Google Analytics に切り替えるというのはどういう感じか。レポートを各参加館側に送るのか。
 - 参加館が希望する場合、Google Analytics のトラッキング ID を取得して連絡してもらい、それを CiNii Research 側に埋め込む形を考えている。NII 側では全体の全機関を把握し、各機関は各機関部分の統計を見ることができる。(NII)
 - CiNii Research がそのような仕様になっているということか。
 - そのような仕様で開発を進めている。(NII)
 - 今回は CiNii Articles についての話だが、もっと大きなスコープの話はないのか。
 - 今後 CiNii Books や CiNii Dissertations も順次統合していく予定である。CiNii Dissertations の方が、データ構造的に統合しやすいので、先に統合したいと考えている。CiNii Books は NACSIS-CAT のデータが基になっており、他のデータ種別とはデータ構造がかなり異なるため、統合には時間がかかる見込みである。(NII)
 - CiNii Research について、名寄せ機能はどうなるのか。CiNii Articles には手動の名寄せ報告機能があるが、CiNii Research でも継続されるのか。
 - ユーザからのフィードバックによる手動名寄せ機能については CiNii Research でも同じ機能を開発予定である (NII)
 - CiNii Articles からの移行で廃止・変更される機能は、資料 3 に書いていると考えてよいか。
 - その理解でよい。(NII)
 - 今年度は CiNii Research についてシステム開発など案件が多そうだが、スケジュールとしては大丈夫なのか。
 - 開発側の人的リソースなどは確保しているが、予算面で他の基盤より特別優

先されるわけではないため、予算面で開発が難しい案件が出てくる可能性はあるが、CiNii Articles 機能移植については、予算を確保している。(NII)

- CiNii Research を探すと、ID として CRID と NAID とが両方出てくるが、将来的に NAID は付かなくなるとの理解でよいか。
 - NAID はあくまで CiNii Articles で付与される ID なので、基本的に NAID は今後新規付与をしなくなる。統合時には NAID とのマッピングを作る予定である。(NII)
- 2017 年の NII-ELS 終了時に生じたような誤解を、ユーザに与えないようにコミュニケーションすることが重要である。Before/After をはっきりと伝え、今はこうなの今後こうなります、ということを提示することが重要である。このようなユーザとのコミュニケーションを上手に行っていく必要がある。
- システム面では、CiNii Articles の分のアクセスを CiNii Research が引き受けないといけない。パフォーマンスやスケーラビリティはどうなるのか
 - CiNii Articles における検索回数・詳細表示件数については統計があり、CiNii Books の 2 倍程度とわかっている。これを処理できる前提でサーバを増強する予定である (NII)
- CiNii Articles の機能が CiNii Research でもできる、と言うよりは、「発展させた」と言った方がいいと思う。CiNii Research になって良くなる点は何か。
 - 関連プロジェクト・関連データ等について、CiNii Articles は論文だけで閉じていたところ、CiNii Research では他のアイテムと結び付くことが利点であり、付加価値だと思う。その意味では「発展させた」と言える。ただし名寄せについて、CiNii Articles で行っている機械学習のようなやり方から ID ベースとなるので、ユーザ側に少し戸惑いが出る可能性がある。(NII)
 - 本検討会の資料中だとどこがそういった部分になるか。
 - 資料 2 の「内部データの高度化」が該当する。CiNii Articles の機能移植関係は表面的な部分であり、「良くなる部分」は内部データの高度化の部分と思われる。ここがうまく行くと、CiNii Articles では同定の精度に問題があった著者検索がかなり良くなると期待できる。(NII)
 - 対外的には、CiNii Research を知っているひとはまだ少ない。まだ前面に押し出してないというのはあるが、そういった CiNii Research の情報は普通の人にも伝わっていくと思う。データの部分について言えば、内容的な機械名寄せ照合が昔ほど必要でない、ということはある。出版環境の変化によって ID などが変わってきていて、ID ベースでの名寄せなど新しい形があり、CiNii Research も、未来の形への転換であるとユーザに受け止められるようなコミュニケーションに力を注ぐのが良いと思う。
- API については「仕様変更」など、API 利用者に誤解を与えない表現が重要だと思う。ただ、利用規約上は NII 側の都合で仕様を変えてよいことになっているので、最終的には割り切りが必要であると思う。
 - 図書館職員向け・技術者向けなどといったように、いくつかアナウンスを分

- けて広報していくのが良いのではないかと考えている。それにあたっては専門の人を招くべきか、それとも今の検討会の枠組みで協力して頂けるのか、ご助言頂きたい。(NII)
- そこは検討会と協力して、図書館の職員と技術者向けとを区別して、広報していけばよいと思う。ただ、どれだけ広報しても、メッセージが届かないユーザがどうしてもあり、そこに対する打ち出し方を練っていく必要がある。実務者向けには Before/After を打ち出していくのがよい。
 - CiNii Articles の統合にあたっては、お知らせを CiNii Articles トップに掲示し続ける予定である。そこで誤解が生まれないように気を付けたい。最初の公表については特に気を使わないといけないので、大学図書館の視点などについて各委員にご協力をお願いしたい。(NII)
 - 来月のオープンフォーラムで最初に出す、その出し方を工夫するというのは非常に重要である。その後 Web ページの上の方にメッセージを置いておく、いくつかのメールマガジンで送る、図書館総合展などで現場へ繰り返し伝えられるようにしておく、など考えているが、他に何か出しておくべきというのであれば、共有して頂けるとありがたい。(NII)
- NII からプレスリリースを出す予定はあるか。プレスリリースは多くのユーザが見ているので、出したら広まると思う。
 - まだ考えていない。本当に実施するなら正式統合する来年 4 月 1 日だが、それでは遅すぎる。新規機能がある訳ではないので、「発展させていく」といった内容とプレスリリースとの相性がつかめていない部分はある。(NII)
 - 一般ユーザに対しては、4 月 1 日に切り替えでよいとの見方はある。対応を考える必要のあるユーザへのお知らせは重要だが、お知らせの内容は勝手に広まってしまうものなので、内容表現は気を付けた方がよい。これは「リニューアル」なので、そこでのメッセージの出し方と、ユーザが何を対応しなければいけないかを伝えるのが重要である。
API についてのベンダー向け説明とか、相手が分かっているならば、適切な伝える言葉を選べばいい。オープンフォーラムなど不特定多数を相手にする場合については、ポジティブな側面を強く出し、変更点はほぼカバーされ、多少の仕様変更があるなどの対応をするのがよい。
 - 図書館総合展までに、といったペースだとちょっと遅いと思う。オープンフォーラムで CiNii Research のセッションがあって、そこで CiNii Research の機能や CiNii Articles の話題を出すのなら、それをフォローアップする形のお知らせを別に掲載したらいいのではないか。
 - オープンフォーラムの発表後は CiNii のお知らせに、CiNii Research へ統合するといったお知らせを出し、それを来年 3 月までずっと掲載する予定である。ユーザを誤解させないように、なるべく早く必要な情報をまとめなければいけないと思っている。(NII)
 - 「2022 年 4 月のリニューアルについて」のようなタイトルで、中を見ると、

図書館向け・開発者向け・一般向けとなっていて、そこにどんどん情報が追加されるようになっているとよいと思う。サービスごと無くなる、と思われるとインパクトが大きくて中身を見てもらえない。他のサービスがどういった見せ方をしているのかを参考にすることもいいと思う。

4 オープンフォーラムについて（報告）

事務局より、資料4に基づき、説明があった。

[主な論点]

- オープンフォーラムについて、「CiNii Research と大学図書館」という題目で、7/6の10時からオンライン開催である。大波委員のセッションの最後の方で、CiNii Articlesの統合について発表する予定である。(NII)
- CiNiiのTwitterでも広報はするのか。色々と情報を受け取るルートはあり、そこから受け取る人もいると思う。
 - CiNiiのTwitterを上手に使いたいと思う。(NII)
- オープンフォーラムの登壇者にはCiNiiの件は伝わっているのか
 - 伝わっている。(NII)

5 CiNii Research プレ版の利用統計について（報告）

事務局より、資料5に基づき、説明があった。

[主な論点]

- プレ期間の5か月間で約32,000件と、CiNii ArticlesやCiNii Booksに比べて利用されていない。4月の本公開以降もまだCiNii Articlesよりは使われていない。リンク関係についてはそれなりに充実してきている、といったことがわかってきている(NII)

6 その他

- 本公開版のCiNii Researchは、とても良くなっていると思う。これまでのツールでは見られなかった自分の成果がリストされていて、それなりにインパクトのある新しい状況を作っている。これを注目してもらおうと良いと思う。